

無人航空機（UAV）で撮影した口永良部島の空中写真判読について

国土地理院では、7月14日（火）に無人航空機（UAV）で撮影した口永良部島の空中写真（南部のおよそ半分）及び平成24年12月に撮影した空中写真を使用して写真判読を実施しました。

写真判読は、主に噴火による火砕流や大雨による泥流や崩落などについて判読しました。

判読した結果、判読範囲全体で規模の大きなものは泥流が発生した1箇所、その他は規模の小さな崩落が数箇所見受けられました。また、火山噴出物により道路が塞がれている箇所がありました。（図-1 参照）

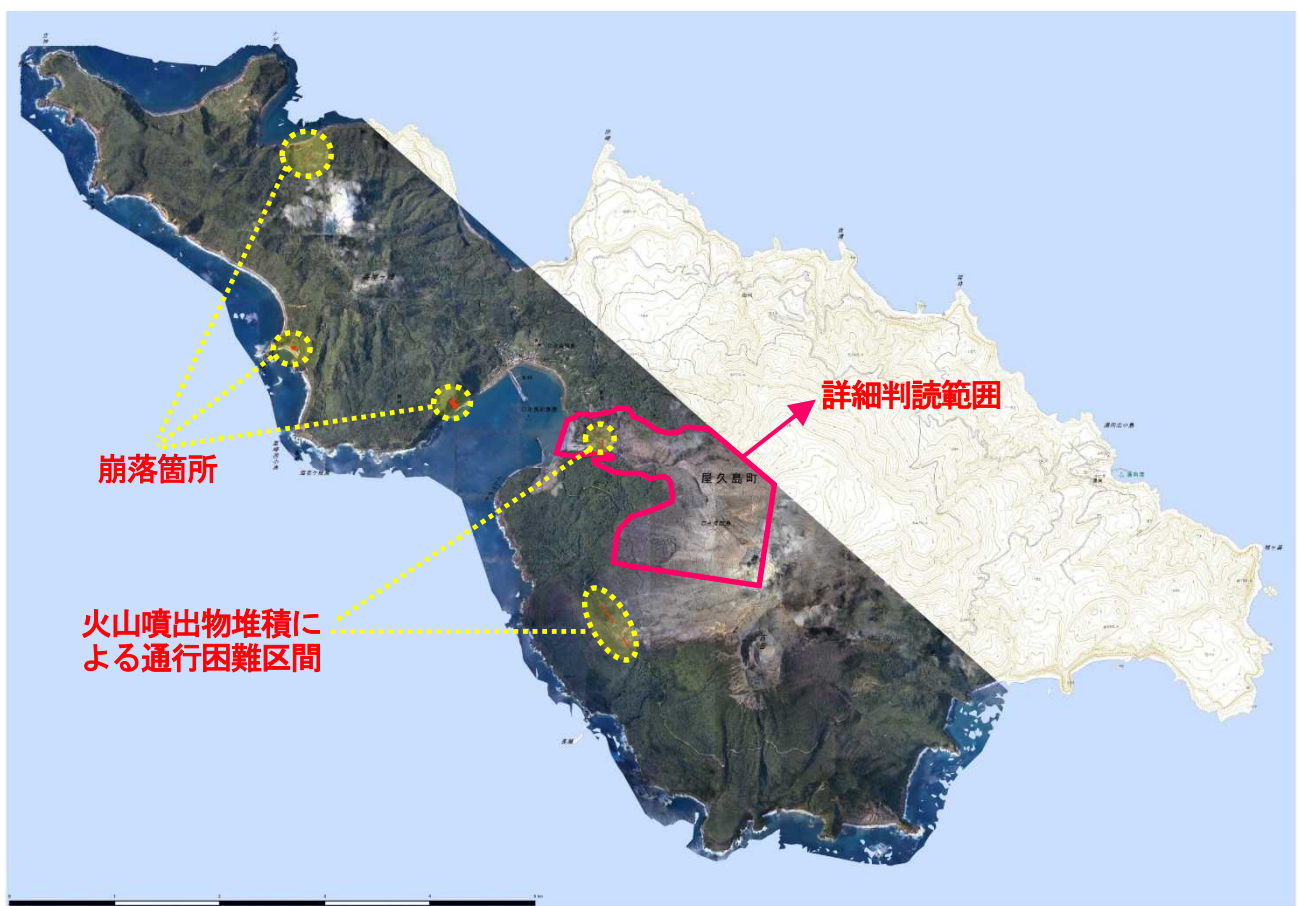


図-1 写真判読概要

規模の大きな泥流が発生した箇所については、詳細な写真判読を実施しています。(図-2 参照)

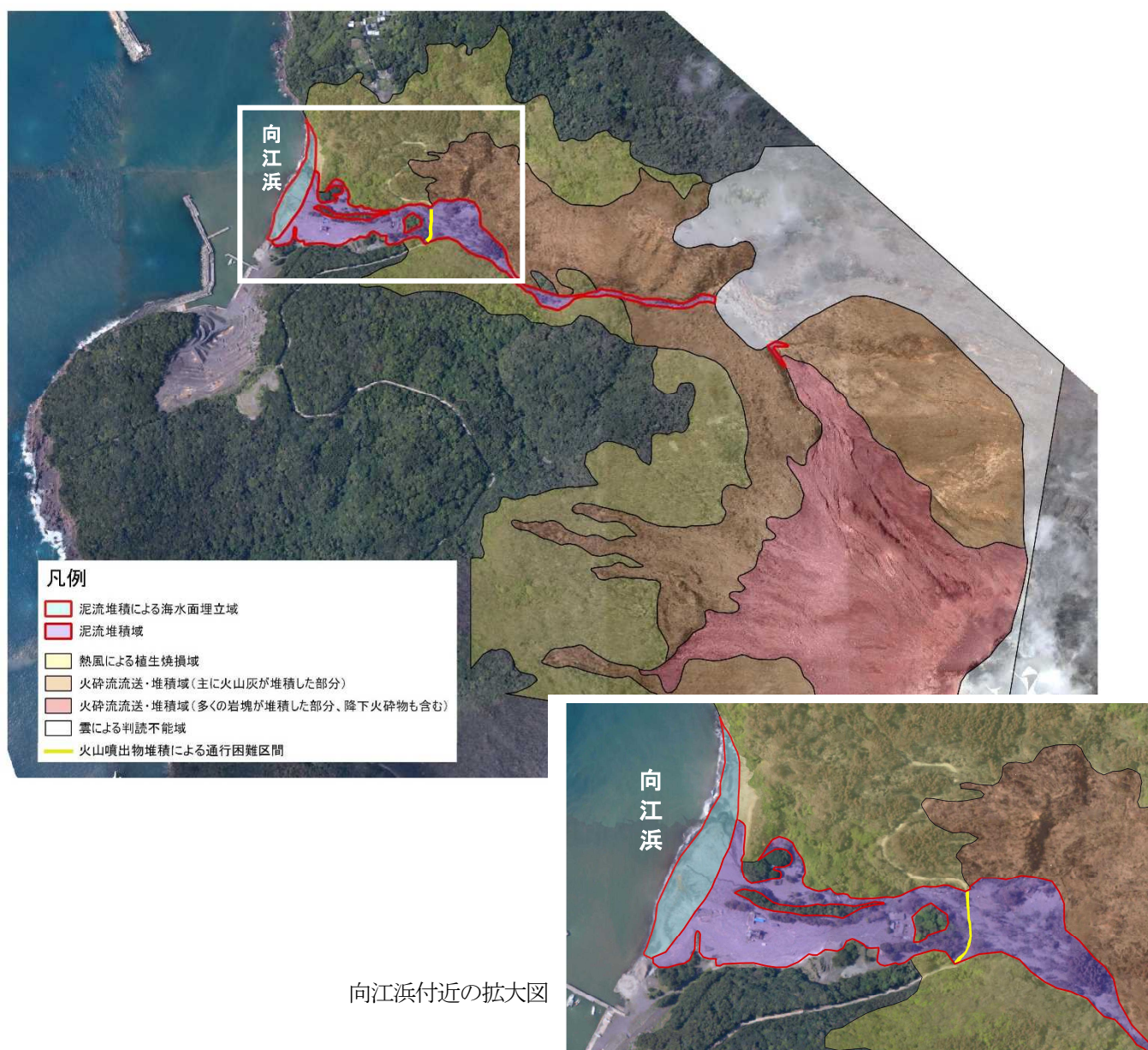


図-2 泥流発生箇所の詳細写真判読結果

向江浜に向かう谷沿いでは、噴火による堆積物が噴火後の降雨により泥流となり谷沿いに堆積し、通行不能となっている道路があります。また、泥流の流入により海水面が埋め立てられ、向江浜が広がっていることがわかります。

山麓においては、噴火による火砕流や熱風により、樹木がなぎ倒されたり焼損された様子がわかります。